

JTU 第 2 種公認審判員 < 認定試験問題の解答例 >

全国実施日 2011 年 2 月 27 日

問 1 エリート大会、エイジグループ大会、ジュニア・キッズ大会など各種大会が開催されています。それぞれの大会でのルール適用上の違い、それによる審判員の役割・審判業務のポイントや注意点・対応策を述べてください。(30 点)

解答例 1) ITU 大会や日本選手権では、ドラフティング許可などルールの違いに対応しなければならない。集団走行のレースでは、ドラフティング走行への注意が不要になる。選手自身の目線が狭まるため、審判員は前方そして周辺の危険要因に目配せをし、危険と思われる場合は、審判員が自らそれを排除する。

解答例 2) 上記の大会では、テレビ放送や取材が入ることが多い。そのため、事前に取材陣との取材方法・カメラ位置の確認が必要(一般大会でも同様)である。審判員は、見栄えがよい大会を心がける。さらに、テレビ報道バイクの選手への接近範囲についても事前の取り決めが必要である。集団走行では、選手同士の接触や突然の集団落車が起こりえるため、バイクマーシャルの走行位置にも気を配る。

解答例 3) ジュニア大会では、一般用のバイクラックが使用されることが多く、小さなバイクが掛けにくいことがある。そのため、ロープを用意することがある。風船や大きな目印を置くことがある。大会では、このようなことにどう対応するかを事前に打ち合わせておかなければならない。さらには、目印を許可するのであれば、事前にその限定サイズを示し、公平な扱いが必要である。

解答例 4) 伴走フィニッシュは、日本選手権などでは禁止であるが、一般の大会では許可される場合がある。許可される場合であっても、選手は審判の監視下にある。花道を多数の伴走者がふさいでしまい、追い抜きができない状況には注意が必要である。

問 2 JTU 競技規則第 8 章バイク(自転車)の(第 94 条: 追い越しと手順)をもとに、違反を含む各種状況を想定しこれを示しながら、コース状況や周辺状況を考慮し、対応方法について述べてください。(30 点)

解答例 1) 右側からの追い越しが基本であるにも係わらず、左側が開いているなどの理由により、左側から追い越す違反状況を想定する。追い越した方も違反であるが、この場合、キープレフトを守っていない選手にも違反が認められる。

そのため、審判員は、違反を誘発した要因にも注意を払わなければならない。このことは、違反状況を前もって予測することが大事である。そして、キープレフトを指示する。

状況によっては、左側の路面が悪く安全のためにキープレフトを避けていることもある。この場合は、スローダウンの指示を出し、追い越す選手を優先することも必要である。追い越す選手と追い越される選手の力量を把握できていれば、この対応がしやすくなるであろう。

総合的で適切な判断のためには、コース状況の不備、各選手の違反状況の割合を換算することも必要である。

解答例 2)

追い越されそうになった選手が、その瞬間にファイトをむき出しにして抜かれまいとする状況を想定する。これにより、選手同士が併走しながら競技を進行している状況となる。

この状況は映像としては迫力のシーンとなり、むやみに注意をするものではないが、違反状況すれすれであることを意識しなければならない。

審判員は危険行為はないか、追い抜き時間の経過はどうかなどに注意しながら、ホイッスルを口にくわえることになる。

この状況はコース設定によっても大きな違いが出る。対面コースであれば、前方から来るバイクにも注意を向けながら、すれ違うとき返に抜ききれないと判断したときは、早めの指示が必要である。

問 3 大会の実況アナウンスが周回数を間違えてアナウンスした。これにより、選手が 1 周不足でフィニッシュしてしまった。この選手はレースに復帰する気力を失っていた。この状況で審判長の対応・防止策について、述べてください。さらに、勘違いや見間違いによる各種状況を想定し、審判長の対応・防止策を述べることもできます。

解答例 1) ルールを理解し競技コースを把握するのは選手の責任である。しかし、レースに集中するあまりに単純な情報が競技に影響を与える。

この選手には、完走の重要性を伝え、レースに復帰するよう勇気づける。さらに抗議と上訴の手順を示し、後日の適切な対応を依頼する。

解答例 2) 技術代表、レースディレクター、審判員に敏速に報告し、再発を防止する。これらの防止には、実況アナウンスとの綿密な打合せを行うとともに、審判員がアナウンスの予備スタッフとなることも検討される。

解答例 3) スイムで起こりやすいが、周回ポイントを正しく回らなかった選手のボディナンバーの読み取りミスによるケース。対象と思われる選手をレース途中で止めてタイムペナルティを与えることができるが、間違っていた場合、取り返しがつかない状況になることがある。そのため、映像記録などを確認しながらも、不確定な場合はレース終了まで見守ることも選択肢の一つである。

大会運営面からは、周回ポイントに不備がなかったかを検証することも必要であり、状況によっては情状酌量の余地があることを考慮しなければならない。

解答例 4) 複数の周回コースで審判員が勘違いして、周回不足であるのにフィニッシュへ誘導してしまうケース。このような場合、審判員はミスを認め、選手に詫言することも大事である。審判長に報告し、原因を探る、これらの成果を共有する。

解答例 5) 大会現場では、選手も間違いをするように、審判員やスタッフも意図しない過ちを犯してしまうことがある。これは、ヒューマンエラーとも呼ばれるもので、人間が同時に二つのことを処理しきれないために起こると言われる。そのため、事前に大会の現場でどのようなミスが起こりえるかを想定しておくことが有効である。さらには、審判員同士での相互確認や事前のチェックシートの作成なども推奨される。

問4 JTU 競技規則の全般（問2の出題項目以外）から、自由に項目（複数可）を選び、選んだ理由とその背景などを交え、審判員としての考えを述べてください。（30点）

解答例1) 第31条（レースウェア）について選択した。昔から比べると格段に進歩したウェアは機能性・ファッション性からも素晴らしいが対応が難しいことがある。オリンピックでは、レースナンバーがなくなり、ウェアに名前をプリントする形式となった。国体においては、スポンサーロゴの制限などが強調されている。選手達にとってはきゅうくつなルールであるが、スポーツである美しい姿を全員で守ることは、観客やテレビ視聴者からの好感度を得るためにも大事である。

解答例2) ウェアやレース用具の不備のために選手がレースに出場できないことは選手の責任であるが、審判員としては、何らかの対応で解決することも心得のひとつである。この違反ではテープで隠すなどがある。そのためマスキングテープや裁縫セットなどの用意も必要である。さらに重要なことは、日頃から選手への啓発に努めることである。

解答例3) 第10条（大会期間中の言動）について、関連することが多く選択した。選手のチームや応援団が大きなノボリをコース周辺に掲揚する場面を見かける。ときとして大会スポンサーの掲示物を隠してしまっている。大会では応援や掲揚物で選手を励ますことも大事だが、大会を支えるスポンサーのことも考えなければならない。このようなケースでは直接的には選手のペナルティとはいえないだろうが、チームとして選手自身が適度な応援を求めることも必要である。審判員としては、応援の状況が審判指示に影響がないか、また選手の目線を隠していないかなどをチェックし必要に応じ指導する。

問5 審判長は、審判員が心身ともに良好な状態で業務ができるよう、各種の配慮を行う役割がある。これにより、バイクコースの誘導審判員の指示方法が旗を振るだけの画一的なものであったので注意を促した。この場合の注意のポイントについて述べてください。さらに、別の状況を想定し、審判長が審判員を指導しながら守るための各案について述べることもできます。（30点）

解答例1) 審判員の動きで大事なことは、選手の動作をいかに把握し、そこから次の動きを予想しているかどうかである。選手の指先がブレーキに掛かっているか、目線はどこにあるかなどに注意を払うべきであることを指導した。コーナーで十分な減速をしていないように見えても、ブレーキレバーに指が掛けられ、コーナーに目線がいついれれば旗振りやホイッスル音が選手の集中力を落とすことになる。

解答例2) バイク競技などで選手が審判員にたてつき口論に発展することがある。競技説明の段階から、大会の特質を説明し、気持ちよく競技ができる和やかな環境づくりも審判長の役割である。また、抗議の基本、選手の権利について明快に説明しておくことも過剰な言い合いを防ぐ方法とされる。

解答例3) 審判長は審判員の服装や身のこなしについても気を配る。不適當と思われる場合は、レース後ではなく、その場で指導する。さらには、疲労していないか、水分は足りているかなどに

も気をつかう。また、技術代表や大会ディレクターとも連携し審判員が健全な状況で業務にあたれるよう配慮する。

解答例 4) 審判長は各部署の責任者と連携を取りながらも、選手の正しい競技を確認し、さらには審判員の適切な動きに気を配る。そのためには、審判長自らが、競技コースを巡回し、ボランティアの業務にも気配りをしながら「あいさつ」を行うことが大会継続のための要点となる。

< 特別ポイント作文 >

トライアスロンをより良く発展させるためにはどうしたらよいかを自由に書いてください。(追加点最高 30 点)

解答例 1) オリンピックに出る選手も一般の選手も同じトライアスロンの仲間であることを認識することは大事である。

解答例 2) 普及と発展のためには、大会の開催が不可欠である。この大会は、選手・競技団体・主催地の三つの大きな柱が調和しないといけない。

解答例 3) 選手の心理には、大会で目立ちたいということがあるだろう。審判員にしても達成感が必要である。そして観客は時間をさいて見に来た価値感を感じられなければならない。

解答例 4) トライアスロンの大会はドラマそして感動の連続である。これを現場だけのものとはせず、言葉で表現して全国に報告すると感動の輪が広がるだろう。審判員は、違反チェックも必要だが、いい話を伝える伝道者でありたい。